

加えて、プレミアム版は価格を従来品より1~2割高く設定できるため収益性が高いという事情も、各社を「戦争」へと駆り立てる。4社による競争でプレミアム人気はさらに高まるのは確実とみられ、サッポロの尾賀社長は「市場の10%拡大もありうる」と期待をにじませる。一方、消費税増税で低価格志向が高まれば、第3のビールが支持を広げるのは必至だ。手ごろな価格と高いアルコール度が好まれる缶チューハイなども成長が見込まれ、女性を中心にワインも人気だ。こうした商品とのミックス戦略も必要だが、本家であるビールでの戦いに負けは許されない。



PowerPointによる理系学生・研究者のための ビジュアルデザイン入門

田中佐代子 著 単行本（ソフトカバー）、128頁、定価2200円+税、講談社

生物工学会誌では2013年4月号から2014年3月号まで、「科学者が知っておきたいビジュアルデザインの心得」を連載しました。本書は、この連載の著者が執筆した、理系学生・研究者を対象とする研究発表のビジュアル化に役立つ実践的な入門書です。我々は、学会発表スライド・学会発表ポスター・論文や報告書・授業・アウトリーチ活動、さらには研究費申請書などさまざまな場面で発表資料を作成する機会があります。「ことば」だけでは相手に伝達するのが難しい内容でも「ビジュアル資料」を追加することで効果的に伝達できるようになることは誰も理解していることでしょう。ただ、イラストはちょっと不得意だったり、思うように発表資料を作成できなかつたりと困ったことはないでしょうか？本書では、「イラストレーション」のみならず「フォント」「文字組」「レイアウト」「配色」「グラフ・表・チャート」なども含めた全体構成を「ビジュアルデザイン」としてとらえ、基本から応用までわかりやすく解説しています。

本書の特徴の一つは、最初の章で「まずは自己分析」し、読者に必要なページが即座に見つかるように工夫されている構成です。自分に不足しているテクニックが掲載されているページのみを読むだけでも十分“わかりやすい”資料作成が習得できるようになるはずですし、最初から通して読めばこれまで感覚的に行っていた作業をグラフィックデザイナーでもある著者がわかりやすい言葉で説明してあるため“よりセンスのよい”資料が作成できるようになるはず。理系学生・研究者に実施したアンケート調査結果や、ビジュアルデザイン教育の研究成果に基づいて執筆されているため、さまざまなレベルの理系学生・研究者のニーズに即しているのも魅力的な特徴の一つです。

本書には、生物工学会誌の連載では誌面の都合上掲載できなかった内容もふんだんに含まれています。自分のビジュアル資料をブラッシュアップしたい方々はもちろん、「科学者が知っておきたいビジュアルデザインの心得」でビジュアルデザインに興味をもった方々、いや、すべての理系学生・研究者の方々に是非とも読んでほしい・手に置いておいてほしいお薦めの一冊です。

(筑波大学 橋本義輝)